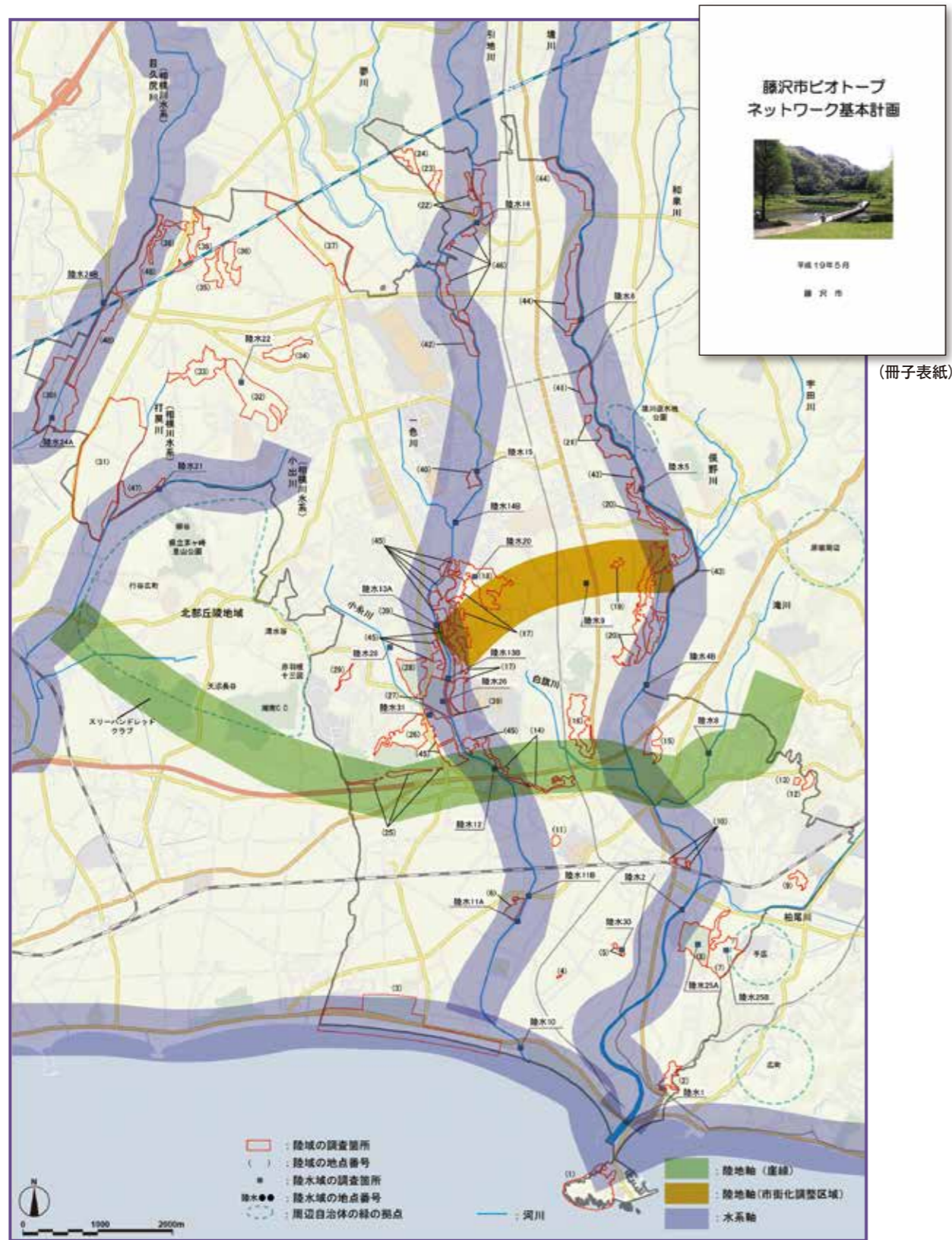


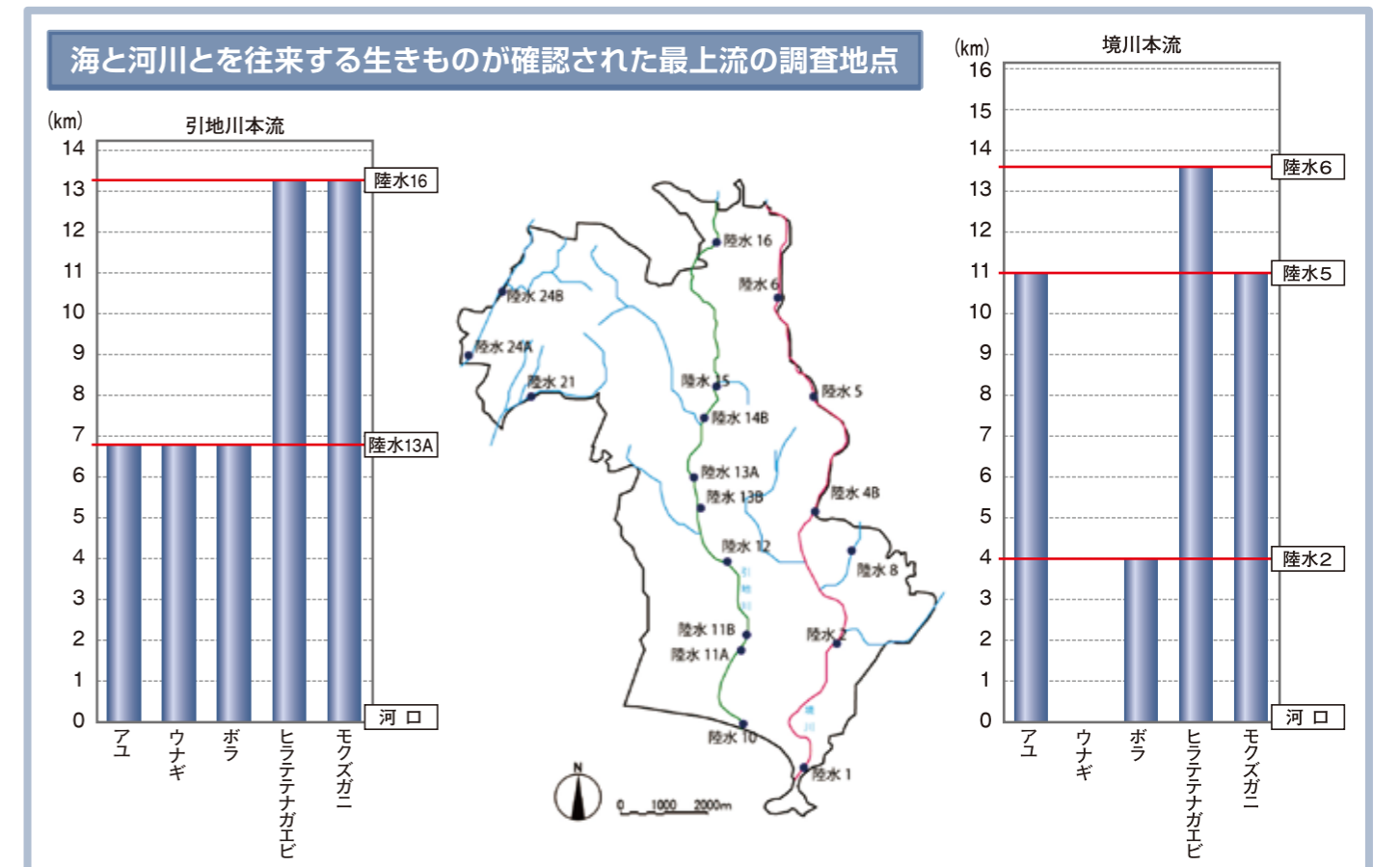
# 7 ビオトープネットワーク ~生きものの生息場所のつながり~

平成19年度(2007年度)策定の「藤沢市ビオトープネットワーク基本計画」において、藤沢市内のビオトープネットワーク形成上重要な場所が整理されています。今回、河川の水系と、地史・地質的にみた大地のなりたちや土地の利用状況を踏まえた陸系に注目し、市域の周辺自治体も含めて、つながり(生態学的な連続性)を調査箇所に重ねて表現し、位置関係を明確化しました。



藤沢市と周辺地域のビオトープネットワーク

# 8 河川と海のつながり ~通し回遊する生きものの調査からみたつながりの健全性~



境川河口



アユ



ウナギ

## つながりの健全性の把握

生きものの生息場所のつながり確保するため、里地・里山・河川・海を連続した空間として捉えていくことはとても大切です。

河川は、源流部から上流・中流・下流へと流れ、海へとつながる生態系です。水生生物の中には、海と河川とを往来して生活し、両方の環境を必要とするものがあります。このような行動・性質を「通し回遊」といいます。そのため、そのような生きものは、河川の途中の環境悪化や堰や段差などの障害物により、上流域への進出、生息が困難になります。同様に河川上流方向からの連続性も、生きものの生息に重要な要因です。そこで、今回の調査では、海と河川とを往来する生きもの(アユ、ウナギ、ボラ、ヒラテテナガエビ、モクスガニ)に着目し、その確認調査地点を図示し、河川と海とのつながりを把握しました。

ヒラテテナガエビとモクスガニは、今回調査を行った最上流までの区間で確認されました。一方、両河川とも、ボラが見られる範囲はヒラテテナガエビやモクスガニより下流域でした。アユは、境川では上俣野橋(陸水5)まで、引地川では引地川親水公園(大庭鷹匠橋下流)(陸水13A)まで確認できました。ウナギについては、引地川親水公園(大庭鷹匠橋下流)でのみ確認できました。